

# 「人をつなぐ、学びをつなぐ保幼小接続」

久御山町立東角小学校

久御山町立東角小学校附属幼稚園・宮ノ後保育所

## 1 学校及び地域の実態

本校は京都府の南部、久御山町の東部に位置する。校区は、古くからの住宅地、新興の住宅地、久御山団地や府営東佐山団地の集合住宅地域に大きく3分される。特に集合住宅地域から通学する児童は全校児童の過半数を占めている。このような特徴から、保護者の出身は全国各地に広がり、核家族の占める割合が大変高い。

また、久御山町では、3つの小学校区にそれぞれ1つずつの幼稚園と保育所を有し、ほとんどの幼児が、校区の保育所または幼稚園を経てそれぞれの小学校へ入学している。さらに、3小学校の児童は90%以上、町内の1つの中学校へ進学している。こうした町の教育環境から、本町では、保育所・幼稚園・小学校・中学校そして町内にある府立高等学校との接続に力を入れている。

中でも、本校附属幼稚園と保育所では、平成15年度から5歳児の一体化運営が行われている。そのため、本校では、保幼小接続に関して町内の先進的な役割を担っていることを念頭に置いて、全職員が試行錯誤しながら実践を積み上げ、今日に至っている。

## 2 連携している幼稚園・保育所名

久御山町立東角小学校附属幼稚園・久御山町立宮ノ後保育所

## 3 連携の概要

学年等		教科・領域等	内 容	時 期
児童	幼児			
1年	5歳	生活科	学校紹介とゲーム	10月
1年	5歳	生活科	体験入学を通しての交流	2月
2年	5歳	生活科	昔の遊びを通しての交流	10月
3年	4歳	総合的な学習の時間	遊び交流	10月
4年	5歳	総合的な学習の時間	給食体験を通しての交流	11月
5年	5歳	総合的な学習の時間	パソコン遊びを通しての交流	3学期
6年	3歳	総合的な学習の時間	東角フェスティバルを通しての交流	3学期
教員	教員		保育・授業参観、保育・授業体験、合同研究会	5・6・11月
		国語科・算数科	国語・算数・学習の基盤となる環境構成 における学びの接続	

## 4 連携実践事例

### (1) ねらい

ア 交流を通してお互いの存在に関心を持ち、思いやりの気持ち（小学生）やあこがれの気持ち（幼児）を育む。 【子どもをつなぐ】

イ 教職員がお互いの教育活動や生活実態を理解し、保幼小接続の視点を明確にしていく。

【教職員をつなぐ】

ウ 国語科、算数科、学習の基盤となる環境構成の3つの視点から、カリキュラムの接続を模索し、確かな学力を基軸とした「生きる力」の育成を図る。 【原体験と学びをつなぐ】

### (2) 連携の内容

ア 2年生と5歳児の交流 【子どもをつなぐ】

(ア) 生活科等の時間を使って遊びコーナーや交流会の準備をする。

(イ) 体育館を使ってみんなで歌を歌ったり、遊びコーナーを回ったりして楽しく交流する。

イ 保育授業参観・保育授業体験・合同研究会 【教職員をつなぐ】

(ア) 保育所、幼稚園の教職員に小学校の国語や算数の授業を公開し、研究会へもできる限り加わってもらう。また、小学校の教職員に幼稚園参観週間を設け、保育の様子を参観する。

(イ) 保育所、幼稚園の教職員は小学校の低学年指導補助を、小学校の教職員は幼稚園の保育補助を1日体験し、お互いの教育活動や生活実態を知る。

(ウ) 保育参観や保育体験を経て、保幼小合同の研究会をもち、接続の視点を明確にしなが、具体的な取組を模索していく。

ウ 国語・算数・学習の基盤となる環境構成における学びの接続 【原体験と学びをつなぐ】

(ア) 小学校の「国語科」と幼稚園・保育所の「言葉」の内容のスムーズな接続を図る。

(イ) 小学校の「算数科」と幼稚園・保育所の「環境」の内容のスムーズな接続を図る。

(ウ) 「あいさつ」「返事」「後始末」「聞く姿勢」等について共通に指導していく。

### (3) 連携の留意点

ア 2年生と5歳児の交流 【子どもをつなぐ】

(ア) 幼児が楽しめる遊びやおもちゃを自分たちで考え、取り組ませる。

(イ) お互いの連絡を密にとり交流のめあてや方法を共通理解しておく。

イ 保育授業参観・保育授業体験・合同研究会 【教職員をつなぐ】

(ア) 原体験と学びをつなぐという参観の視点を保幼小で共通理解しておく。

(イ) 一日という長い時間を通して、幼児や子どもの実態はもとよりお互いの活動や生活を知ることにより保幼小接続の視点をより明確にしていく。

(ウ) お互いの思いや考えを出し合う場を設け保幼小接続をより深いものにしていく。

ウ 国語・算数・学習の基盤となる環境構成における学びの接続 【原体験と学びをつなぐ】

(ア) 特に「聞く」「話す」ことに焦点をあて接続を模索していく。

(イ) 現在行っている様々な活動を生かしなが、無理なく幼児の体験と学びの接続を図っていく。

(ウ) 交流行事の中にも「聞く」「話す」「学習の基盤となる環境構成」のめあてを取り入れていく。

## 5 成果

- (1) お互いの教育活動や生活実態がよくわかり、接続の視点が少しずつ明確になってきた。
- (2) 原体験と学びをつなぐ視点を入れ、保幼小を見通した教育活動を進める一步が踏み出せた。
- (3) 情報交換が密になり、子どもたち一人一人に対する理解が深まった。

## 6 課題

- (1) 今後もお互いの連絡を密にとり取組を具体化させていきたい。
- (2) 交流だけに終わるのではなく、活動の評価を次の指導に生かすことで、普段の生活の中にも保幼小接続の視点を取り入れた取組を深めていきたい。

2年生と5歳児の交流

【子どもをつなぐ】

「おみやげももらっ  
たね。」

「楽しいな。」



2年生と5歳児の交流

【子どもをつなぐ】

「みんないらっしゃい。」

「とっても楽しいお店だ  
よ。」

「わーい、楽しいな。」